

# 占冠村の森林資源について

昨年11月に開催された住民懇談会では、「村有林で薪の活用が進んだ場合の残存量がどれくらいか。持続可能な活用ができるのか。」と資源の枯渇を懸念される声がありました。今月の広報では村有林の現況などについてお知らせいたします。

占冠村の山林土地面積は5

37.26km<sup>2</sup>であり、占冠村土地総面積(571.41km<sup>2</sup>)の約94%を山林が占めています。占冠村の山林は、国有林が90%、私有林が6%、村有林が4%という比率で構成されており、山林の大部分を国有林が占めています。村有林は、天然林が55%、人工林が45%という比率で構成されています。

## 森林のはたらき

森林には大きく分けて、次のような機能があります。

### ①生物多様性保全

森林は、遺伝子や生物種、生態系を保全するという、根源的な機能を持っています。約200種の鳥類、2万種の昆虫類をはじめとする野生動物の生息・生育の場となっています。

### ②地球環境保全

森林は、温暖化の原因である二酸化炭素の吸収や蒸発散作用により、地球規模で自然環境を調節しています。

### ③土砂災害防止機能/土壌保全機能

森林の下層植生や落枝落葉が地表の浸食を抑制するとともに、森林の樹木が根を張り巡らすことよって土砂の崩壊を防いでいます。

### ④水源かん養機能

森林の土壌が、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能を持っています。また、雨水が森林土壌を通過することにより、水質が浄化されます。

### ⑤快適環境形成機能

森林は蒸発散作用等により気候を緩和するとともに、防風や防音、樹木の樹冠による塵埃の吸着、いわゆるヒート

アイランド現象の緩和などにより、快適な環境形成に寄与しています。

### ⑥保健・レクリエーション機能

森林は、安らぎや癒しの効果をもつ空間であり、フィットネスやランニングと呼ばれる樹木からの揮発性物質を含めて健康増進効果があると言われています。また、行楽やスポーツの場を提供しています。

### ⑦文化機能

森林のランドスケープ(景観)は、行楽や芸術の対象として人々に感動を与えるほか、伝統文化伝承の基盤として日本人の自然観の形成に大きく関わっています。また、森林環境教育や体験学習の場としての役割を果たしています。

### ⑧木材等生産機能

森林は環境に優しい資材である木材の生産のほか、各種の抽出成分、きのこなどを提供しています。

## 森林機能を保つ

森林は、先述のとおり様々な機能を有しています。林業は、植栽・保育・伐採などの施業や森林管理を通じて、これらの機能を維持・向上させるという役割を持っています。

木の枝葉が茂りすぎると、日光を遮るようになり、昼間でも日光が十分に地面に行き渡らず、様々な植物の成長に悪影響を及ぼします。十分な栄養を吸収できずに成長した弱々しい木は、土砂災害を引き起こす原因にもなります。

また、森林は光合成により二酸化炭素を吸収し、温暖化防止に重要な役割を果たしています。森林は、成長が盛んな若い時期に二酸化炭素をよく吸収します。成長の衰えた木を伐採し、新たに植林を行うことで地球温暖化の抑制につながっています。

村の人工林(特にトドマツ)は伐採する時期を迎えており、伐採した跡に若い木を植えることで、村の森林機能は維持されます。

## 持続可能なエネルギーとして

村有林の資源は、面積で2千ha、蓄積で320千m<sup>3</sup>あり、造林量の面積は750haとなっており、薪の原料は、間伐や林道支障木など森林整備により産出される伐採木の中で、建築材などに利用されず未利用とされていたものを活用しています。したがって、薪生産を目的とした伐採は行っていません。

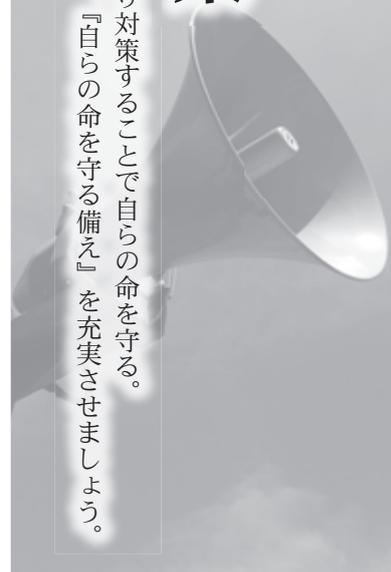
森林資源の枯渇を心配される声をいただくことがありますが、村の全世帯(外国人世帯を除いた約650世帯)が冬期に薪ストーブの暖房に切り替えたとしてもその年間使用量は村有林の森林蓄積の1.5%です。森林の年成長率は約1.9%程度であるため心配は無いと考えておりますが、今後も資源が枯渇しないよう質の高い森林管理に努めていきます。

詳細は、林業振興室までお問い合わせください。

農林課 林業振興室  
TEL 562174

# 冬期間の防災対策

冬期間に発生する大量の雪や厳しい寒さによって自らの命を守る。いつ起こるか分からない災害から身を守るために、『自らの命を守る備え』を充実させましょう。



平成30年9月、北海道胆振東部地震が発生し、この地震の影響で北海道全域が停電しました。道内が混乱状態に陥ったことは皆様の記憶に新しいところだと思えます。

このような大規模な地震が冬期間に発生したらどうなるか、考えてみたことはありませんか。

冬期間に地震が発生し停電となった場合、コンセント電源による暖房器具は使えなくなると思えます。村では、マイナス20度を下回る日がしばしばありますよね。暖房器具が使用できないと身体を暖めることができなくなるだけではなく、水道の凍結も引き起こすので、命の危険に直接関わります。また、大きな揺れによる屋根からの落雪にも備えなければなりません。落雪事故に巻き込まれなかったとしても、落雪により屋内に閉じ込められてしまうことも想定されます。さらには、悪天候や停電による交通

網の麻痺で、村内で物資が不足する事態にもなりかねません。

冬期間は、ほかの季節と異なり『雪』や『寒さ』などの危機からも身を守らなければなりません。大地震が発生した場合、最も被害が大きくなるのは冬期間であり、私たちは『自らの命を守る備え』を確認しておかなければなりません。

## 寒さから身を守るために

地震によって電気や水道などのライフラインがストップした場合、暖房器具が使えなくなると思えるので、寒さをしのぐ準備が重要です。電気を使わない暖房器具の準備、避難が必要となった場合の道中やその後の避難生活でも必要となりますので**防寒シール**はもちろんのこと**防寒シール**

**ト・毛布・使い捨てカイロ**を用意しておきましょう。

●電気を使わない暖房  
・カセットガスストーブなど  
※カセットガスボンベで使用できます。ガスボンベは、冬期間は多めに用意しておきましょう。

- 防寒着  
・ジャンパー、コート
- ・防寒用帽子、手袋、靴下
- その他防寒備品  
・防寒シート  
・カセットコンロ  
・毛布、使い捨てカイロなど

## 除雪はこまめにしましょう

冬になると屋根には雪が積もっていますので、地震の揺れによる**屋根からの落雪**、雪の重みによる**家屋等の倒壊**の危険性が高くなります。崖などの急傾斜地では、なだれが発生しやすくなるなど、冬は夏と比べて思わぬ危険が増えます。

災害が発生した際に速やかに避難できるよう**玄関先や避難路をこまめに除雪**するなどの対策をしておくことが大切です。また、屋根からの落雪などで玄関が塞がることもあるため、屋根の雪下ろしはもちろん、窓や通用口付近も除雪しておきましょう。

## 日ごろから消火活動の訓練を

冬は、ストーブなどの暖房器具を使用しているため、夏と比べて火災発生の危険性が高くなります。火事が起きたときに初期消火が出来るように、**日頃から消火活動の訓練**をすることが大切です。最近の暖房器具は、振動を検知して自動的にガスや灯油の供給を止める機能が備わっていますので、ご家庭の器具がきちんと動作するか、定期的に点検・確認しておくことも大切です。

## 非常時持ち出し品リスト

災害発生に備えて、日ごろから携行できる『0次持出品』と、最初に持ち出す『1次持

出品』、災害から復旧するまでの数日間を支える『2次持出品』にわけて用意しておきましょう。

○0次持出品  
・携行品 現金、身分証明書、携帯電話、筆記用具、ハンカチ、ティッシュペーパー、マスク、携帯食、飲料水 など

○1次持出品  
・非常食、水  
・懐中電灯、携帯ラジオ  
・衣類、タオル  
・救急医薬品

○2次持出品  
・食品  
・水  
・燃料、防寒具 など

## 防災訓練のお知らせ

冬期間の災害を想定した防災訓練を開催します。ご参加のほど、よろしくお願いたします。

**日時** 平成31年2月16日13時  
〜平成31年2月17日8時まで  
**場所** 占冠村コミュニティプラザ

TEL 総務課総務担当  
56-2121